

富士山噴火避難ルート検討事業

(山梨県総務部防災危機管理課)

富士山における突発的な噴火に備え、複数の噴火パターンに対応した避難ルートの検討を行う。(平成26年度12月補正事業)

1 経緯

- これまでの富士山噴火対策は、噴火警戒レベルによる事前情報を前提に、特に富士山周辺市町村住民の避難対策を中心として検討を行ってきた。
- しかしながら、御嶽山の噴火においては、噴火警戒レベル3(入山規制)発表前に水蒸気爆発が発生し、多数の入山者の生命が失われた。
- 富士山においては、夏季の登山シーズンを中心に多くの入山者が訪れることから、突発的な噴火災害に対応するため、複数の噴火シナリオを想定した上で、避難ルートのあり方について検討する必要がある。

2 事業内容

(1) 避難シミュレーションの実施

- ・道路現況の確認(登山道・下山道・林道等)
- ・火口位置や噴火の形態、規模等について、いくつかのパターンを整理
- ・パターンごとに入山者の避難についてシミュレーションを実施し、避難ルート及び避難時間を整理

(2) 避難ルートマップの作成

- ・避難シミュレーションを基に、既存の登山道、下山道、林道等を活用した避難ルートマップを作成

(3) 避難ルート検討報告書の作成

- ・「避難ルートマップ」「今後検討が必要な事項」等を整理し、県防災会議富士山火山部会により検討し、報告書を作成

(4) スケジュール

平成27年 2月	避難シミュレーション業者発注
平成27年 6月	報告書素案作成
随 時	山梨県防災会議富士山火山部会の開催